

一昨年から、私は自分の母親と一緒に暮らしています。父が亡くなり、母は独り暮らしでしたが、10年ほど前から「頭の中が白くなって、物事が解らなくなる」と言い出しました。診察を受けると、アルツハイマー型認知症でした。

母は住み慣れた家での生活を望み、ヘルパーさんの助けを借りながら暮らしてきましたが、しばらくして入退院を繰り返すようになりました。私も実家に通いながら母の様子を見守っていましたが、離れていると心配事も募ります。そこで私の住むお寺に呼び寄せ、介護をしながら母と一緒に生活するようになりました。一緒に暮らし始めた頃、母が変わってしまったことにとっても戸惑いました。穏やかだった母が、怒りっぽく疑い深くなっていたからです。探し物が見つからないと「誰かが盗んだ」と言って怒りを爆発させ、私が「誰も盗んでないよ」と言っても、母の怒りは収まりません。これには私も悲しくなり、反動で母に強く当たることもありました。

しかし救いは、以前より大きな声を出して笑うようになったことです。何がそんなにかしいのか、私たちにはさっぱり分からないけれど、とにかく何かにつけて、母はよく笑うようになりました。また、大好きな歌を聴くと、母も歌います。嬉しそうに体を揺らして歌う母の姿を見ていると、私も笑顔になります。笑う機会が増えたことで、以前よりも家の中が明るくなった気がします。

「子育てと介護は、似ている」と誰かが言っていました。今まさに、私はそんな経験をしています。私を一生懸命育ててくれた母。今は、母への恩返しの時なのだと思います。自分が認知症になった時、果たして子供は私の面倒を見てくれるのか。一抹の不安はありますが、母を見ていると私も子どもを信じて、自分の老後を託すのも悪いことばかりではない。そんな気がしています。